

【全体概要】

紅系かんしょは加工用として栽培体系が確立していないことから、多収品種・系統の現地実証や特性把握を行い、多収安定生産技術の確立を図った。また、同品種・系統の加工特性の確認を行い、収益性についても検討した。

新品種・新技術等の概要

・T-15

宮崎県内の現地ほ場及び宮崎県総合農業試験場において選抜された多収性系統であり、加工用として宮崎県内において試験栽培を実施。



・からゆたか

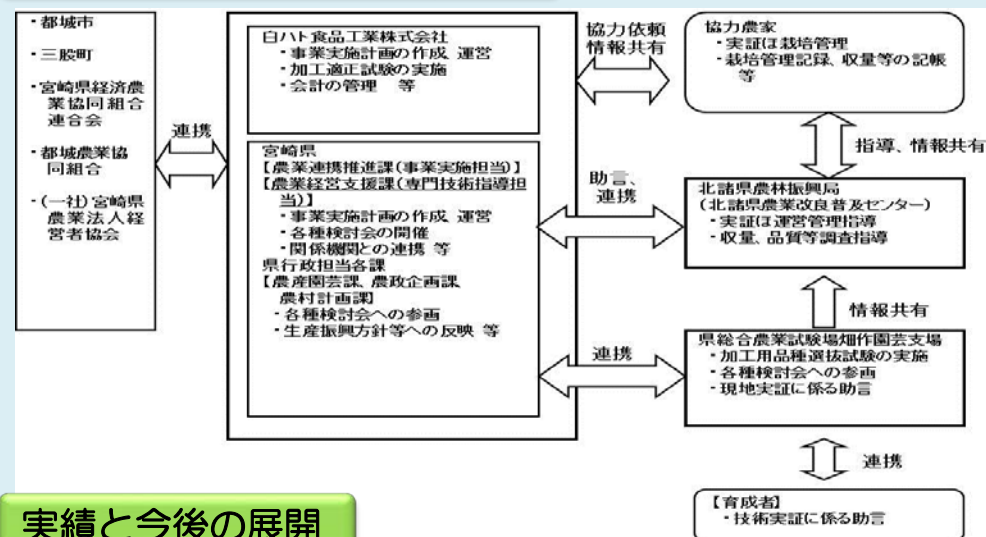
農業・食品産業技術総合研究機構において育成された品種で、多収性であることから、加工用としての利用が期待される。



主な取組内容

- ・多収性品種・系統の現地実証並びに特性把握
- ・多収性品種・系統の加工特性調査
- ・紅系加工用かんしょを柱とした新たな営農体系の検討

コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

- 多収性品種・系統の現地実証を行った結果、「T-15」が目標としていた収量4.5t/10aに迫る3.7～4.4t/10aとなり、多収性が実証された。
- 多収性が確認された「T-15」は、大学いも等への製品にした時に食味や加工歩留まり等の加工特性が高い評価となった。
- 今後は、加工用として高い収益性が実証された「T-15」を活用しながら、紅系加工用かんしょの産地拡大を推進する。